

【5】 考察と今後の課題

小学部では、ムーブメント教育の理論をもとに研究実践をしている。

1年次……テーマの決定・研究の構想図の作成、実態把握の調査について

2年次……表現活動（身体表現、言語表現、造形表現等）について

子どもの実態をふまえ、目標を決め学習に取り組んだ結果、少しずつではあるが子どもたちに変容がみられた。

3年次……授業づくり

昨年度までは、教師主導の学習で、子どもたちが受動的であった。そのため、生き生きとした面が欠けていた。そこで、本年度は、子どもたちが主体的に楽しんでからだを動かすための実践に取り組んだ。その一つの方法として、遊び活動（みたて・つもり活動）の中で、

- 子どもの意欲
 - 子どもと教師の関わり
- > 生き生きとした動き

を大切にしながら、実践してきた。初めの頃は、教師と子供の1対1・1対2の活動が多かった。運動中の表情にも堅さがみられた。1学期の中頃から、子ども同士の活動もできだして、運動に対しても積極性がみられ、楽しく生き生きと運動する子どもが増えてきた。リズム・サーキット、合同体育で養われたからだが、遊びに生かされたり、また遊びがからだづくりに生かされればと思う。生活単元学習では、単元の組み立てを他の領域との関連を考え、精選していかなければならない。また、実態をふまえたより効果的な教材教具の活用も大切なことである。

ムーブメント教育の理論をもとにして研究を進めているが、今後一層の研究をし、生活単元学習の中で、どのように生かしていくのがよいか話し合いをしていかなければならない。